

**Q64.** 糖尿病患者で足先への血流の悪化のため、足を切断せねばならない患者が、新たに作った血管細胞を駄目になった血管の近くに植え込み、血管を再生させ足を切断しなくても回復できることをTVで見ました。再生不能とされている腎臓の糸球体細胞の再生への研究は進んでいるのでしょうか。

A.

糖尿病を持つ透析患者さんで、動脈硬化のため、足の血流が悪くなり、その結果、足趾（足の指）が変色したり、潰瘍になる事があります。ひどくなると、壊死を起こし、足を切断しなければならないこともあります。これは、血糖のコントロールの良い方、透析歴の短い方でも発症しますので、注意が必要です。当院では、10年近く前より、看護師がそのような危険のある方の足趾の観察を定期的に行い予防に務めています。日々、足趾を清潔に保つこと、保温が大切です。最近は血行改善のため、炭酸浴も勧めています。血管に強い狭窄が疑われる場合、血管外科の専門医に依頼し、血管の拡張術や人工血管によるバイパス術等を受けてもらっています。結果は、概ね良好です。

御質問のあった培養した血管細胞を注入して、血管再生をはかる方法は、端緒にすぎず、標準的治療になるにはもう少し時間がかかりそうです。また、透析患者さんの血液中には血管細胞の材料となる幹細胞が少ないので、他の方より難しいようです。また、腎糸球体の再生については、更にその後になりそうです。それより他の動物からの腎を移植する方法（例えば豚）の法がより現実的であるようです。当面は確立された内科、皮膚科、外科的治療法を着実に且つ時期を失することなく、受けていくことが肝要かと思われます。

医師